



挨拶

「山梨いのちの電話」開局5周年を迎えて



新たな出発のために

山梨いのちの電話 理事長 大澤 英二

開局5周年を迎えることが出来て感謝である。この間に何と多くの人々の折りと善意がささげられ集められ、有効に働き、見えないところでどれほどの人々が暗闇に光を見出ししてくれたことか。感慨無量である。

開局はちょうど5年前 2001年(平成13)4月7日。全国49番目のセンターとして、2本の電話で相談を開始した。週5日、16時～22時の6時間を80名余のボランティア相談員の献身的な努力により、1日も休むことなく今日まで続けられている。驚くべきことではないだろうか。開局2年ほど前のことを少しひも解いてみた。新たな5年の出発の戒めとしたい。

きっかけは1999年5月、日本キリスト教団甲府教会社会委員会主催の講演会。日本いのちの電話連盟の斎藤友紀雄氏の「危機にある心を支える」を聞いた人々の感動と即断と行動力による。

「設立に向けて第1回準備会記録」にはこう記されている。日時：1999年7月22日午後7時 会場：甲府教会 参加者：大澤英二他21名(氏名省略) 協議内容：設立の経緯 目的 責任者 連絡先 準備委員名簿 経費 寄付金 カンパ 事務室 電話室 静養室 ボランティア100名 賛同者200名 等々。

初回にしてはかなり具体的に踏み込んだ意見が出されている。設立に向かう意欲が伝わってくる内容である。以来、近隣センター見学、12回の設立準備会、13回の世話人会を経て事務局が設置され、2000年3月25日設立総会、同年5月より第1期相談員養成講座実施と認定を経て2001年4月7日開局、そして今年5周年となったのである。現在は年間5,000件以上の相談がある。願いに勝る働きがこの地に創められたと感謝以外の言葉を知らない。

しかしながら、5年の年月を経た今日、小さな組織ではあるが、様々な問題に直面していることも事実である。中長期展望委員会の指摘によれば、法人化の促進、相談員養成と研修の充実、広報と財政強化と維持会員増強、相談活動の前進等々が急務だという。

これらの課題に取り組むためには、まず私自身に言い聞かせていることではあるが、この運動を担う者一同が、心の緩みとマンネリ化に気づき、初心に立ち帰り、設立当初の情熱を思い起こし、新しい5年の出発の時としなければならないであろう。